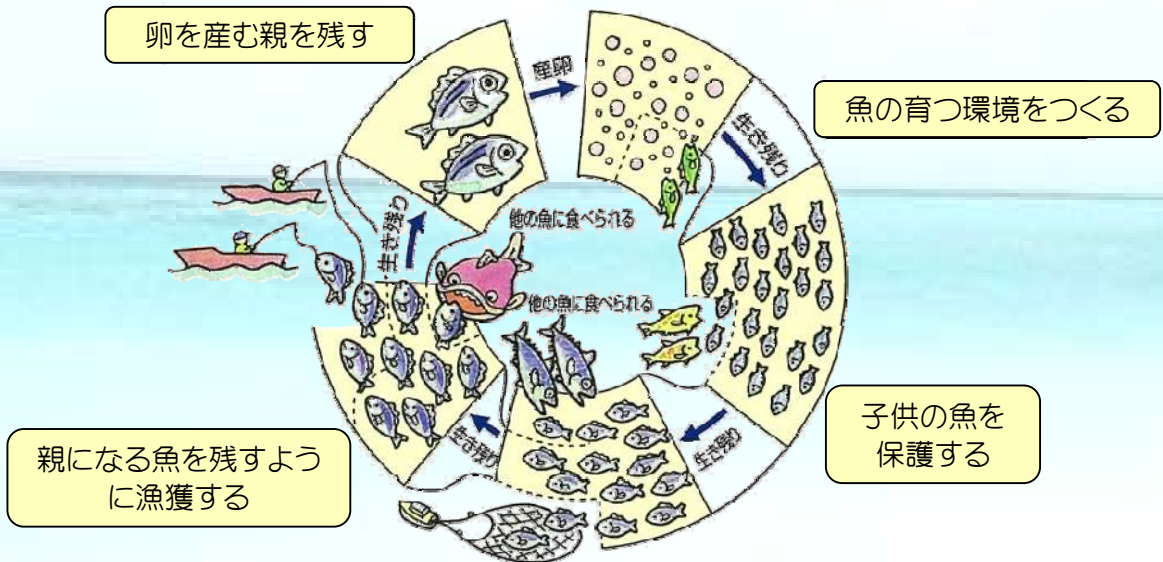


## ②水産資源の適切な管理

安定した漁獲量を維持していくためには、獲りすぎないように、生物の再生産と漁獲のバランスをとりながら、水産資源を適切に管理していくことが不可欠です。

漁業者は、資源を持続的に有効利用するため、操業期間、漁獲サイズ、禁漁区等を話し合いながらルールを定めて操業を行っており、これを資源管理型漁業と言います。

県では主要魚種の資源動向の調査や、効果的な管理手法の検討などにより、漁業者の取組みを支援しています。



### 資源管理計画

漁業者同士の資源管理の約束事を記した「資源管理計画」が各地区で漁業種類ごとに作られています。

なかでもイカナゴの資源管理計画は資源管理の模範的な事例として全国に知られています。

愛知・三重両県の水産研究機関が調査した科学的データを基に、発生尾数や成長速度の推定を行い、両県漁業者の話し合いによって、解禁日や終漁日が決定されています。



調査船による資源調査

### マリン・エコラベル

マリン・エコラベルとは、水産物や製品が、「水産資源の管理」や「生態系への配慮」に取り組んでいる漁業によって漁獲されたものであることを証明する制度で、認証されると目印となるラベルをつけることができます。

このラベルの付いた水産物や製品が消費者に選ばれることで『水産資源と環境に優しい漁業』を応援することをねらいとしています。

愛知県しらす・いかなご船びき網連合会は、イカナゴとシラスで「マリン・エコラベル・ジャパン」の「生産段階認証」を取得しています。



### ③担い手の育成・確保

活力ある漁業・漁村社会の形成には、漁業の担い手となる優秀な漁業者の育成が不可欠です。県では、意欲ある漁業者のグループ活動の支援や、各種研修会の開催、漁村のリーダーとなる「漁業士」の認定など様々な施策により、漁業の担い手育成を図っています。また、若い世代に漁業への理解促進を図る取組等により、新規就業者の確保を図っています。



漁業者グループによる研究活動の報告会



養殖技術等の研修会



中学生を対象とした少年水産教室



小学生を対象とした愛知の漁業の出前授業

### ④多面的機能を発揮させる漁場の保全

沿岸の干潟・浅場や藻場は、「海のゆりかご」として生物生産にかけがえのない場所ですが、同時に、水質の浄化や、人と海とのふれあいの場など、様々な役割を有しています。

県では、漁業者が中心となって行っている、干潟や藻場の保全活動を支援しています。

近年は、人と海が共生する「里海」の概念が定着し、海が本来有する機能を発揮させるためには、人の手によって沿岸域の十分な管理が行われることが不可欠とされています。

人の手による干潟・浅場や藻場の保全活動が進められることで、生き物が豊かな「里海」となることが期待されています。

#### 干潟や藻場の保全活動

漁業者を中心とした干潟や藻場の保全活動が進められています。写真は漁業者が種をまいて生えてきたアマモです。

